

○平成25年産春野菜の需給・価格の見通しについて

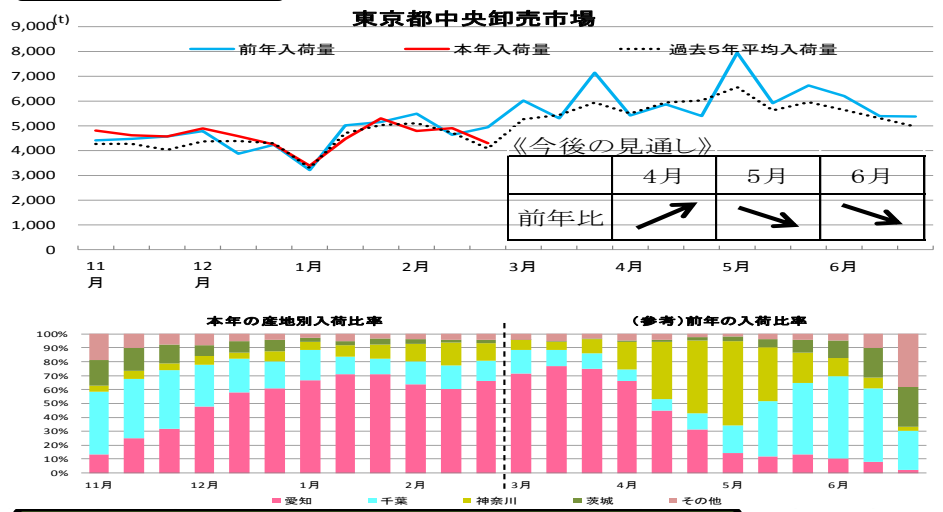
春キャベツ(4~6月)

主産地の動向等

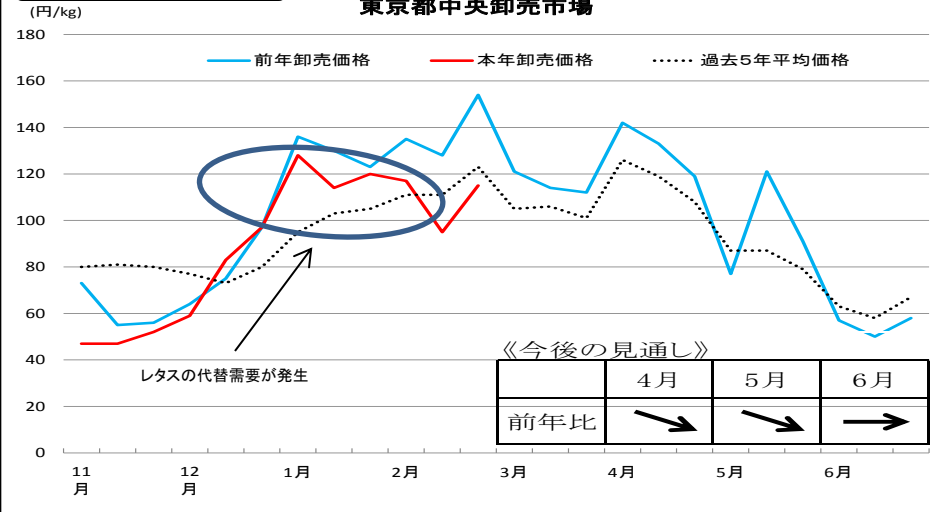
(主な産地:千葉、神奈川、愛知)

- 1 作付面積は、千葉は前年比100%、神奈川は同99%、愛知は同101%。
 生育状況は、千葉は、低温等の影響からやや遅れていたが、3月が高温のため回復傾向となり、作柄良好。神奈川は、冬期の低温により生育にバラツキが見られ、今後の天候次第では、一部1~2週間程度遅れる産地もある見込み。愛知は、「冬・春系」は、適度な降雨があり、日照もあることから品質は安定する見込みで、「初夏どり」は、生育が順調。
 出荷開始は、千葉は4月上旬、神奈川は3月下旬、愛知は冬系は3月、春系は3月下旬、初夏どりは5月上旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並み又は少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
 作付面積は、千葉、神奈川、愛知ともに前年並みの見込み。
 生育状況は、低温の影響により生育の遅れやバラツキが見られたが、3月に入り回復傾向となり、作柄良好。
 出荷量は、4月は前年を上回り、5月及び6月は前年を下回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
 4月の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、4月及び5月は前年を下回り、6月は前年並みの見込み。
 加工・業務用においては、寒玉系が少ない時期となることから、輸入ものや冷蔵ものでの対応が多くなる見込み。

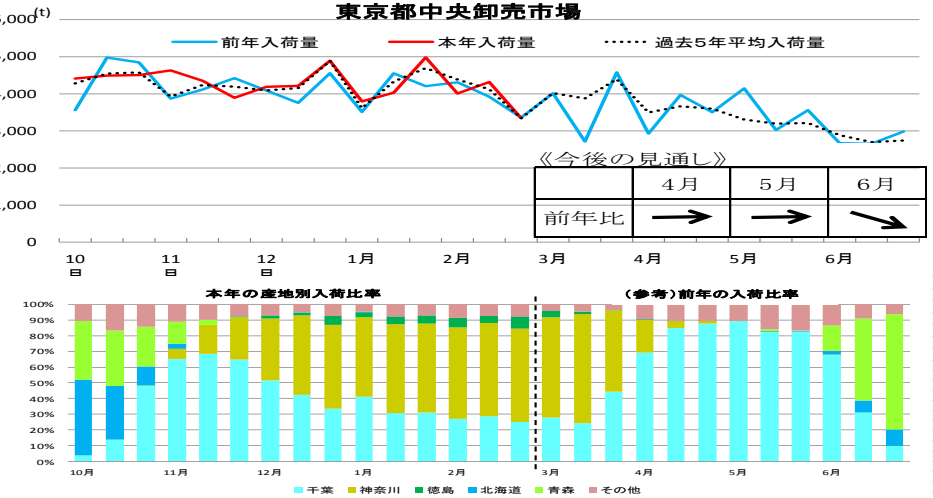
春だいこん(4~6月)

主産地の動向等

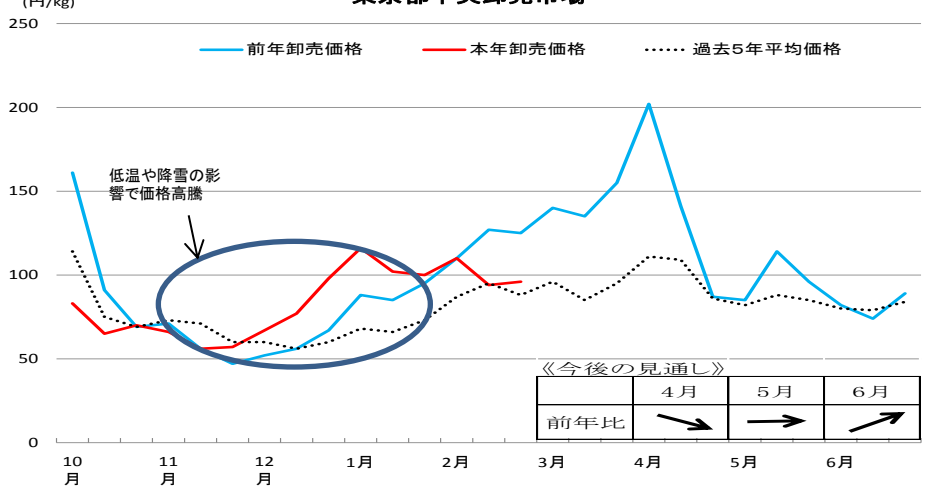
(主な産地:千葉、長崎)

- 1 作付面積は、千葉は前年比101%、長崎は同100%。
生育状況は、千葉は、低温等の影響からやや遅れていたが、3月が高温のため回復傾向となり、作柄良好。長崎は、天候の影響から生育遅れのほ場も散見される。
出荷開始は、千葉は4月上旬、長崎は3月上旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並み又は少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、千葉、長崎ともに前年並みの見込み。
生育状況は、低温等の影響から遅れていたものの、気温の上昇とともに回復傾向。
出荷量は、4月及び5月は前年並み、6月は青森のは種作業が遅れれば、前年を下回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
4月及び5月は概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、4月は前年が高値だったことから前年を下回り、5月は前年並みの見込み。
6月は青森の出荷が少なければ、価格は、前年を上回る見込み。
加工・業務用においては、国産が潤沢にあれば、国産主体で対応する見込み。

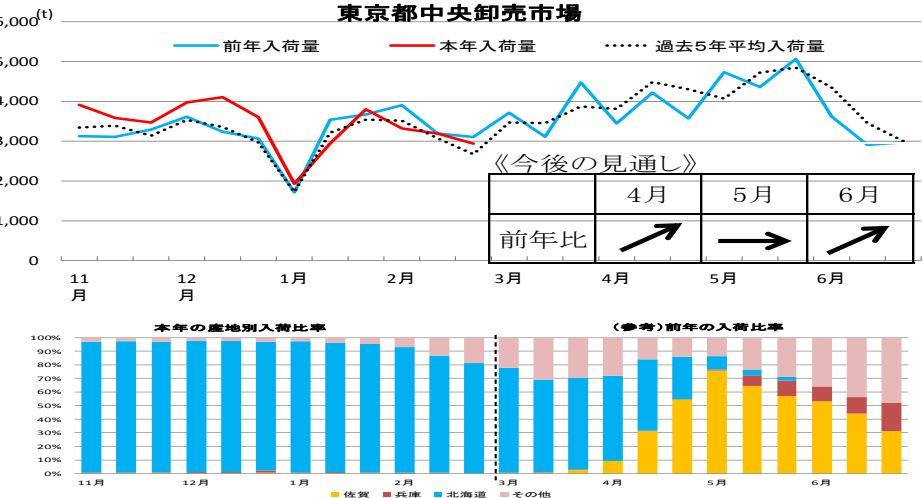
たまねぎ(4~6月)

主産地の動向等

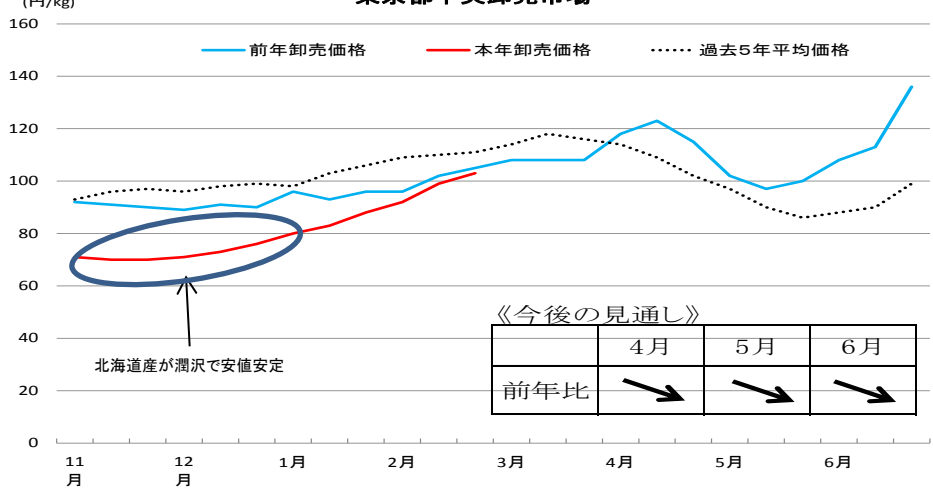
(主な産地:北海道、佐賀、兵庫)

- 作付面積は、北海道は前年比101%(前年の面積は雹害分を除く)、佐賀は同100%、兵庫は同99%。
生育状況は、北海道は、3月上旬の暴風雪で、一部ハウス損傷があったものの、影響はほとんどない模様。佐賀は、定植時期の降雨と低温によりやや生育が遅れたが、現在は生育順調。兵庫は、極早生は順調に定植ができているが、早生は雨の影響で定植が遅れており、中生・晩生は定植が遅れていたが、天候の回復とともに、順調となってきている。
出荷開始は、北海道は貯蔵ものが出荷、佐賀は3月上旬、兵庫は3月下旬。
- この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年並み又は少なく、日照時間は平年並み又は少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し
作付面積は、北海道、佐賀、兵庫ともに前年並みの見込み。
生育状況は、一部産地で降雨や低温の影響があったものの、回復。
出荷量は、4月は前年を上回り、5月は前年並み、6月は前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
北海道の貯蔵ものが多く残っており、府県産の出荷も概ね順調と見込まれることから、価格は、前年を下回る見込み。
加工・業務用においては、中国産の不作や円安の影響により輸入価格が上昇しており、国産にシフトする傾向もあるが、今後、中国産の価格が下落すれば、ふたたび中国産にシフトする可能性がある。

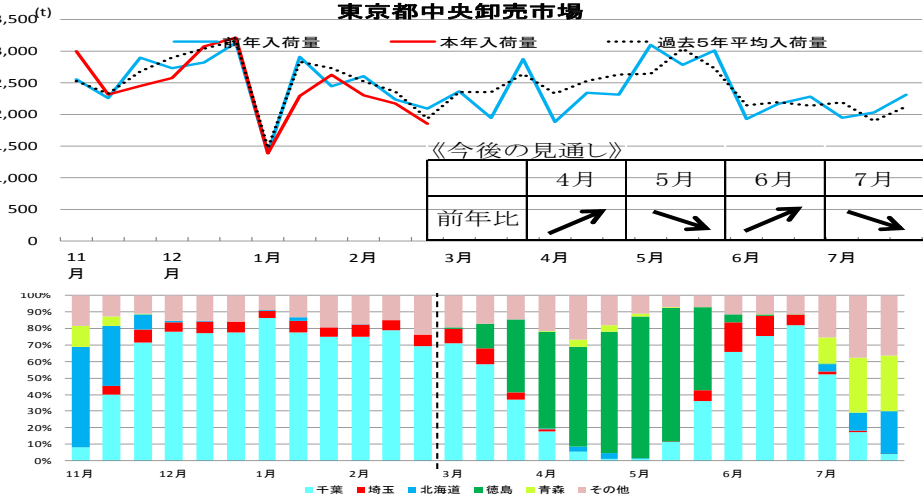
春夏にんじん(4~7月)

主産地の動向等

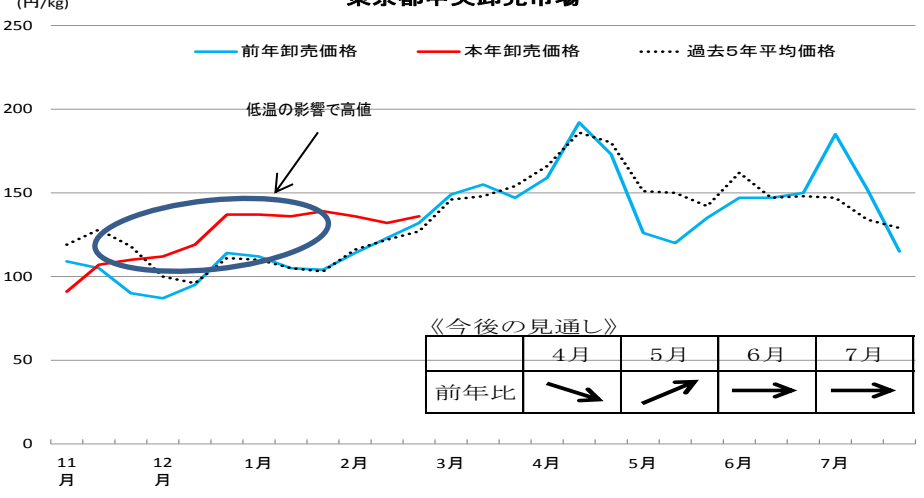
(主な産地: 徳島、千葉)

- 作付面積は、徳島は前年比99%、千葉は同100%。
生育状況は、徳島は、冬期の低温により生育が遅れているが、2月以降は気温が上昇し、日照時間も長くなってきていることから生育順調となる見込み。千葉は、年内は種分は順調だが、年明け以降は種分は天候不順の影響から作業が遅れており、冬期の低温から全体的に生育も遅れ気味で、作柄は平年並み。
出荷開始は、徳島は3月上旬、千葉は4月下旬。
- この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並み又は少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し
作付面積は、徳島、千葉ともに前年並みの見込み。
生育状況は、冬期の低温により一部産地で生育が遅れているが、作柄は良好。
出荷量は、4月は前年を上回り、5月は前年を下回り、6月は前年を上回り、7月は前年を下回る見込み。
- 需要・価格見通し
4月は出荷が増加すると見込まれることから、価格は前年を下回り、5月は出荷が減少すると見込まれることから、価格は前年を上回り、6月及び7月の価格は前年並みの見込み。
加工・業務用においては、国産より安価な輸入もので対応する傾向が強い。

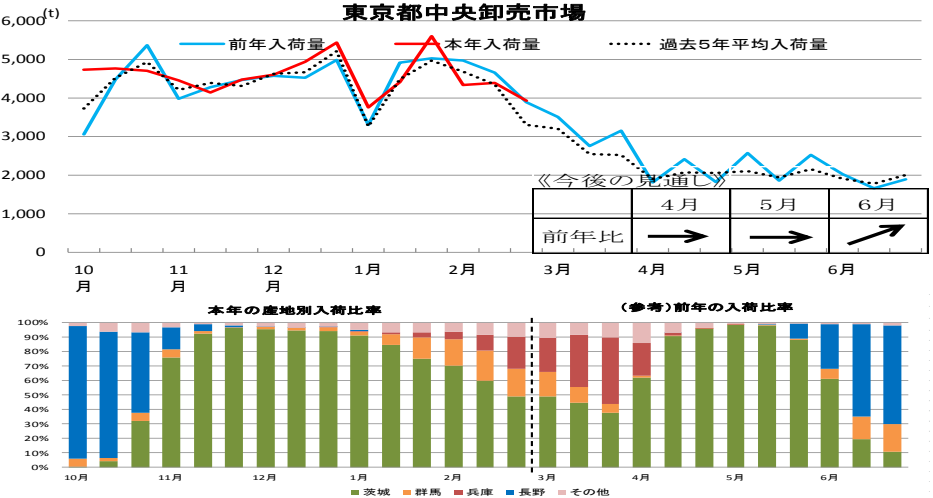
春はくさい(4~6月)

主産地の動向等

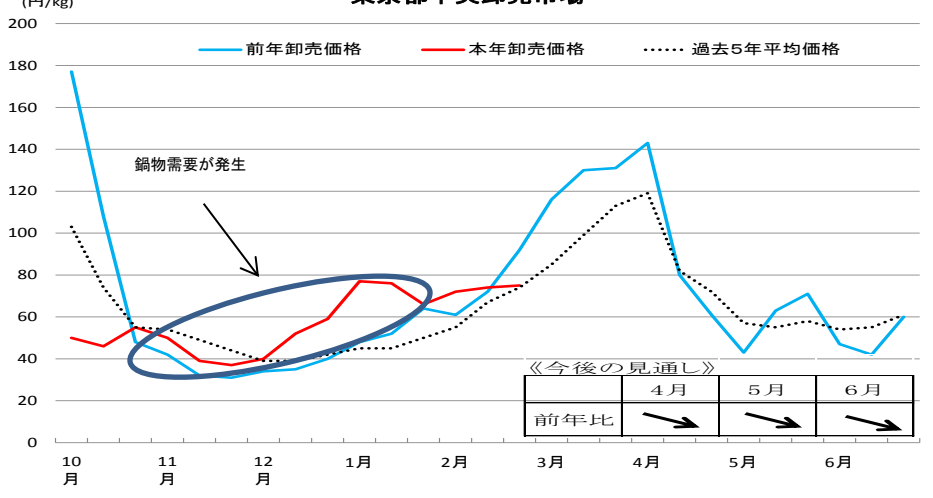
(主な産地:茨城、長野)

- 1 作付面積は、茨城は前年比100%、長野は7月出荷分を6月に前倒し傾向のため同104%。
 生育状況は、茨城は、早い作型のものは、生育期の低温・干ばつの影響により、生育遅れが見られ、晩生は現在定植中。長野は、例年どおりは種され、苗の生育も順調で、定植は3月下旬からの予定。
 出荷開始は、茨城は3月上旬、長野は5月下旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
 作付面積は、茨城は前年並み、長野は前年を上回る見込み。
 生育状況は、一部産地で低温による生育遅れが見られる。
 出荷量は、4月及び5月は前年並み、6月は前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
 消費が減少する時期となる中で順調な出荷が見込まれることから、価格は、期間を通して前年を下回る見込み。
 加工・業務用においては、外食の鍋需要が終了し、漬物用の原料も潤沢に確保されていることから、引きは弱い。

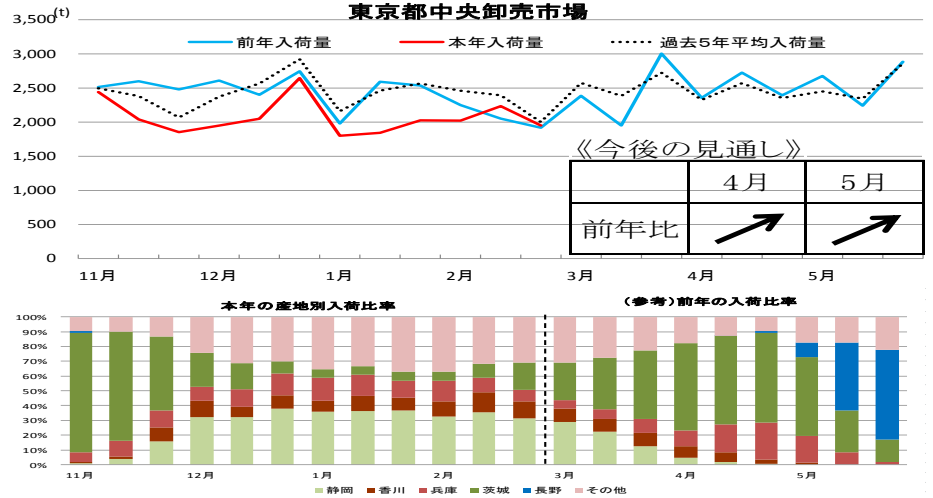
春レタス(4~5月)

主産地の動向等

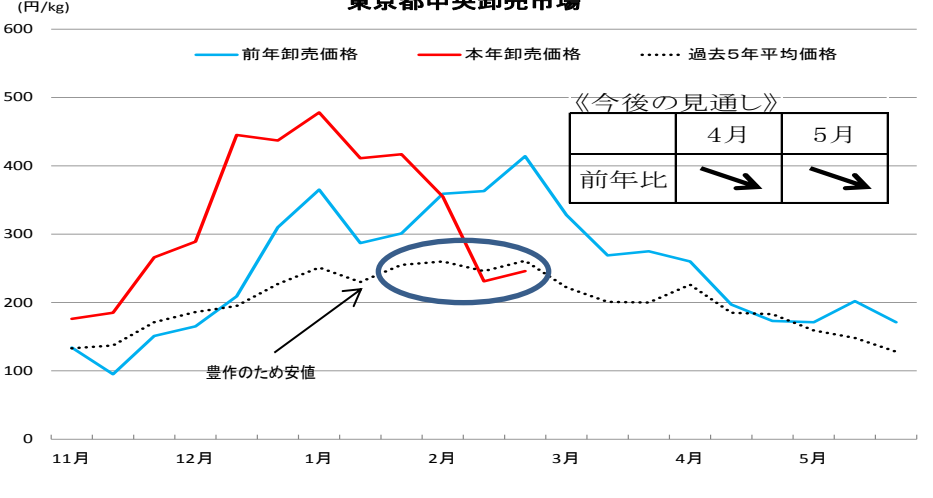
(主な産地: 茨城、長野、兵庫)

- 1 作付面積は、茨城は前年比102%、長野は同108%、高齢化による減少傾向となっている兵庫は同98%。
生育状況は、茨城は、低温及降雪の影響より、定植作業が停滞し、依然として生育遅れが散見される。長野は、降雪が多く、低温傾向だったため、3月から定植作業が始まっているが、今後の生育は4月の天候次第。兵庫は、トンネル栽培は低温の影響から生育が遅れており、露地栽培は定植前。
出荷開始は、茨城は2月上旬、長野は4月下旬、兵庫は4月上旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み又は高く、降水量は平年並み又は少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、茨城は前年をやや上回り、長野は前年をかなり上回る見込み。兵庫は前年をやや下回る見込み。
生育状況は、一部産地で定植の遅れや低温の影響から、生育の遅れが見られる。
出荷量は、期間を通して前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回る見込み。
加工・業務用においては、国産で対応しやすい時期となる。

その他、春野菜全体の消費の動向等

① カット野菜の動向

- ・野菜の価格が高かったことから、安定して伸びている。ゴミも出ず、無駄のないのが好まれる。
- ・単品系よりもミックス系の伸びが大きい。
- ・客層としては年配の方や、若い夫婦の購入が多い傾向。
- ・野菜の価格高騰があるたびに、カット野菜を購入して、使い勝手のいいことに気付き、新たなユーザーが増えているのではないか。
- ・ドレッシングや具材等を工夫し、シニア向けの商品を開発することでまだまだ販売は伸ばせるのではないか。
- ・業務向けのカット野菜は確実に伸びている。

② 春先以降の消費を左右する要因、注目している要因

- ・円安傾向にあることから、輸入野菜の価格が確実に上がる。国内産の需要が伸びる可能性があり、産地づくりのチャンスである。
- ・外食産業では、これまで価格(低価格)を重視する傾向にあったが、景気回復もあり、おいしさ(品質等)を求める方向に変わる傾向がみられる。

③ 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・けんちん汁やカレーの具といった下ゆでした野菜の販売が伸びている。
- ・地域のブランド野菜を若い女性を中心に購入する人が増えている。また、ハーブ等が外食産業で注目されている。
- ・青ねぎを使ううどんチェーン店が西から東へと出店が増え、加工・業務向けの青ねぎの需要が伸びている。
- ・トマトは、暖かくなってくると酸味が増しておいしくなるため、様々な品種を提案していきたい。

④ 輸入野菜の動向

- ・春先の輸入ものの商談も始めているが、値段が上がっている。あまり高い場合には、輸入ものを減らすことも視野に入れている。
- ・たまねぎは、中国での生産減に加え、円安傾向にあることから、輸入価格が高くなってきている。ただし、価格が高くなったことを踏まえ、生産増になる可能性もあり、動向を注視する必要がある。